



古代の人と馬 そして今

心
あ
っ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

和種馬の牧場、ホースランド大阪」がオープンする時のニュースが2021年にありました。馬を提供するのは北海道帯広市の郊外にある「剣山どさんこ牧」で、ここでは70頭以上の北海道和種馬（通称・道産子）が自由に昼夜放牧で飼われている。馬たちはとても人懐っこくて大人しく、場合によっては人が近づくと自分たちから寄ってきて鼻をこすりつけてくる。決して観光客に愛嬌を振りまくように躡けられたわけでも何でもない。この馬たちは生まれつき優しい性格で、地元の人たちは「日本で一番大人しく、人懐っこい道産子」と称賛する。そのうえ、この馬たちは和種馬の特徴とも言えるべき側面の特徴を受け継いでいる。人の場合も側対歩は存在し、本来は日本民族独特の歩き方とされてきた。俗にいうナンバ走りと同様。馬の場合は速歩などで右前脚、右後脚が同時に動く。欧米の馬が斜対歩の歩様で下の揺れが大きいのに対し、側対歩の馬はこの揺れが小さく、

騎乗で弓を射ったり、武器を扱うのに都合がよいだけでなく、背中に積んだ荷物の損傷も少ないので昔は重宝されたようである。もともと和種馬は洋種馬に比べて体が小さく、体高は道産子で125センチ、135センチだが、脚元が丈夫で山岳地や悪路に強く、粗食に耐える我慢強さがある。今回、導入される道産子は江戸時代に夏季の使役のため南部藩が連れてきた南部馬が、冬季にそのまま放置され、北海道の厳しい気候風土に適応するようになった、と言われている。南部馬は今では絶滅していて、その姿を見るのができないが、200キロもの荷物を積んで急斜面の山道を上り下りできる道産子の能力から江戸時代の南部馬を想像することができる。現在、日本には僅か8種類の和種馬しか存在せず、木曾馬（長野県）、御崎馬（宮崎県）、対馬馬（長崎県）、野間馬（愛媛県）、トカラ馬（鹿児島県）、宮古馬（沖縄県）、与那国馬（沖縄県）、北海道和種馬（道産子）である。一番頭数の多い北海道和種馬でも1000頭余りで、絶滅の危機にある。和種馬の起源は古墳時代にモンゴル高原から朝鮮半島を経由し、対馬・九州に家畜馬として導入された蒙古系馬にある。これが全国に広がったとされている。そして大阪と

いう地は、東大阪地方、生駒山麓や旧河内湖周辺の遺跡からは馬の骨の出土例が31を数えている。5世紀後半から6世紀後半にかけてのもので、古墳時代の大阪には放牧場が複数あり、朝鮮半島を経由して輸入された馬や日本で生まれた仔馬たちを飼育していたと考えられている。まさに、古代の地で、古代からの馬が集まるといえる。運命のようなニュースがあったことをしりました。（神戸新聞絶滅危機を救え、日本にいる8種類の和種馬つなごう）帯広と古墳時代の大阪（より）

編集後記

昔の人と昔の馬が同じ歩き方だったとは、一緒に生きてきたのだと感じられます。恰好の良さより、心優しく、力がある馬。素敵ですね。次号は、現在のこの地のニュースをお届けします。